

# *Medicine for the last mile*

— すべてのアフリカの人々に健康と笑顔を —



NPO法人  
**AfriMedico**

年次報告書

**2018**

2018年4月

）

2019年3月

## ご支援を頂いている皆様へ



2018年度も多大なご支援を頂き、誠にありがとうございます。NPO法人設立から5年目に突入しました。

タンザニアでの置き薬も200世帯を超え、さらにその置き薬のアフターフォローとして、使用している方々の薬剤情報の把握に努め、よりよい置き薬の形・情報提供仕組み作りに取り組んでいる段階です。それもこれを読んで頂いている皆さま一人ひとりのご支援のおかげです。心より感謝申し上げます。

2018年度の新しい取り組みとして、初の学生インターンを実施しました。日本人一人で現地での活動は心細かったとは思いますが、そんな不安を退け現地でのタスクをしっかりとこなしてくれました。日本メンバーは親のように心配をしていましたが、数ヶ月後帰国して再会した時に、顔やオーラが変わった彼を見て、私はホッとしたような元気を貰ったような感覚でした。ひとり一人が挑戦するのを見守るのもまた、嬉しいものです。

さらに、何よりのこの1年の大きな変化は「私のマインド」です。今までは「こんな私で何が出来るのだろうか？もっと能力のある人は沢山いる。私なんかでなくても、本当にいい貢献が出来る人がいるのではないだろうか？」そんなことを考えていることも多く、悩んだ時期がありました。自信の無いリーダーには誰もついてきません。自信と謙虚さ持って旗振りをする事の重要さと、一つ一つのアクションが大河の一滴が海になることを学ばせていただきました。一緒に活動するメンバーから学びつつ、周りに育てられている代表ですが、「未来を創る」ということをこの1年は特に意識してきました。

2019年度は置き薬事業を拡大する一方で資金も必要なため、認定NPOを目指します。年間3,000円以上の寄付者を100人募っています。是非、これを読んでいる皆様と共にいい未来を創りたいので、今後ともご支援・ご協力・叱咤激励を宜しくお願い致します。

2019年6月

町井 恵理

## 私たちのMission

私たちは“Medicine for the last mile”をスローガンに、  
「医療を通じて、アフリカと日本をつなぎ、健康と笑顔を届ける」  
ことをミッションとしています。

## 私たちの活動


私たちはアフリカと日本で以下の活動を行っています。

- 日本発祥の置き薬事業の普及により住民のセルフメディケーションの促進
- 住民への医療知識の教育
- 医療環境調査による適切な現状把握
- 日本イベント・セミナーでのアフリカ課題の啓発活動

置き薬で救える命をとりこぼさないことを目指し、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）ーすべての人が、適切な健康増進、予防、治療、機能回復に関するサービスを、支払い可能な費用で受けられることーに貢献していきます。




## ① 置き薬事業：200世帯達成！

詳細は4ページへ 


- ✓ 2018年度には、前年まで活動していたBwama村、Mlegele村に加え、Mlegeleに隣接するN'g Ombehela（ングオムベヘラ）へ活動地域を拡大。3か所で合計206世帯の家庭に置き薬を届けることができました。
- ✓ 置き薬事業の拡大に伴って、医療教育の充実にも注力しました。
- ✓ タンザニアの医学生・薬学生合計6名が新たにAfriMedicoの活動に加わってくれました。

## ② 現地マネージャー初来日

詳細は7ページへ 


- ✓ タンザニアのマネージャーGeofreyが初来日。
- ✓ 富山の廣貴堂様を訪問し、日本の置き薬の現場や工場見学をさせていただきました。また、支援者の皆様との交流イベント、AfriMedicoの日本側のスタッフとのミーティングなど、対面での充実した時間を過ごすことができました。“日本の薬をアフリカへ”も継続して協議・検討しています。

## ③ AfriMedico初 学生の海外インターン

詳細は8ページへ 

- ✓ AfriMedicoの学生（当時）プロボノメンバーのニモが、3か月間タンザニアでインターンを実施しました。普段は日本のスタッフとタンザニアのスタッフがインターネットを通じた遠隔でのコミュニケーションを取っていますが、3か月という時間を現地でご過ごすことで見えてきたことがたくさんありました。

## ④ 日本国内での活動

詳細は9ページへ 

- ✓ AfriMedicoの日本側のスタッフは、理事・プロボノ合わせて38名まで増加しました。現地の置き薬事業の支援、医療教育用資材の作成、広報活動、企業様との連携、薬剤の申請、経理・財務、人事、ICTなどの業務に従事しています。また、置き薬事業の有用性を可視化・定量化するため、研究に取り組むための検討も開始しました。
- ✓ 代表理事町井を中心に、イベント等を含む登壇回数は2018年度1年間で20回となり、2,000名を超える皆様にAfriMedicoを知っていただくことができました。中でも、Salesforce様主催のSalesforce World Tour Tokyo 2018では、AI（画像認識）を活用した置き薬の在庫管理の自動化の取り組みについてブース出展・セミナー登壇させていただき、1,100名を超える方にブース・セミナーにお立ち寄りいただきました。
- ✓ AfriMedicoをより多くの方に知っていただくため、NPO法人二枚目の名刺様の御協力をいただき、「ファンをつくろうプロジェクト」として、広報活動・資金調達施策の見直しを行いました。

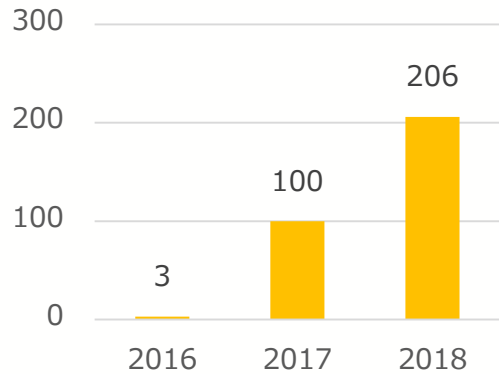
# 置き薬事業：200世帯達成！

置き薬の設置数は、206世帯を達成し、対前年で106世帯増えました！

利用者からは、24時間家に薬がおりてあり、いつでも利用できる利便性を高く評価していただいています。また、先用後利の仕組みも好評。置き薬をおいている村は農業をしている人が多く、収入は季節変動がある（収穫期に年収の多くを稼ぐ）ことから“使った分だけ払う”仕組みは村人にとって費用面でもとても使いやすいと言っていただきました。



置き薬設置数の推移



2018年度は、前年まで活動していたBwama村、Mlegele村に加えて、Mlegeleに隣接するN'g Ombehela（ングオムベヘラ）にも活動地域を拡大しました。N'g OmbehelaはMlegeleからバイクで25分くらいの場所にあり、250世帯の人々が生活しています。村に学校や医療機関はなく、薬局もありません。置き薬の導入をとっても喜んでいただくことができました。



新規の置き薬利用者にヒアリング

利用者の声：Bwama村で食堂をやっている女性

「朝6時に起きて食堂8時帰宅も20時になる。そんな時に夜に子供が熱を出した。OKIGUSURIで対応出来たことが大きい。OKIGUSURIは手元にあるのが助かる。」

AfriMedicoでは現地訪問時に村の環境調査なども行っています。

特に飲用水は感染症などの疾患とも密接な関係があるため、住民の生活や健康状態を知るためにはとても重要です。

写真左：Bwama村の共用の水道

写真右：Mlegele村の生活用水（湧き水）



200世帯達成には、現地のメンバーが大きく貢献しました。タンザニア側には、全体を統括している

マネージャーのGeofrey、オペレーションマネージャーのGosby（写真左）、学生メンバーがおり、全員、本業または学業の傍ら、AfriMedicoの活動に協力してくれています。

今年度は学生メンバーも増え、社会人になったオペレーションマネージャーのGosbyは、新メンバーの教育や村に常駐している置き薬マネージャーの教育、村人への啓発活動などを推進しました。



2019年3月 200世帯設置を記念して  
Gosby（写真左）と理事の山口（写真右）



### 新たな学生メンバー参加

今年度は、新たに6人の学生メンバーがAfriMedicoに加わりました！

薬学部生だけでなく、医学生も参加。

「AfriMedicoの活動を知って、自分も何かできないか、と思った」など、熱い想いを持って活動に参画してくれています。

これまで、オペレーションマネージャーのGosbyについて村での置き薬の設置や教育方法について学んできました。これからは、学生メンバーだけで村に訪問し、活動をしていきます。

メンバーが増えたことで、村人への教育や、村に常駐している置き薬マネージャーのサポートなど、これまで以上に事業を推進していきます。

### <村の医療環境>

タンザニアの医療機関は、病床数や実施可能な処置などから、総合病院、クリニック、ヘルスセンター、ディスペンサリーの順になっています。

ディスペンサリーとは、日本でいう「かかりつけ医」のようなもの。AfriMedicoが活動している村から一番近いディスペンサリー（写真）には、医師2名、看護師2名、看護助手2名が働いています。ここは、村からバイクで20分程度かかる距離にあり、バイクが使えないとたどりつくまでにもっと時間がかかります。



村に一番近いディスペンサリー

## <村人への医療教育活動>

置き薬は、各家庭に置いてあるのですぐ使えて便利な反面、使い方を間違えたり、副作用が起こるリスクなどもあります。そこで、AfriMedicoは単に置き薬を設置するだけでなく、紙芝居やリーフレットなど村人にもわかりやすいツールをつくり、置き薬の正しい使い方を村人に説明しています。こういった地道な医療教育活動によって、薬の誤用を防ぎ、セルフメディケーション促進につなげます。

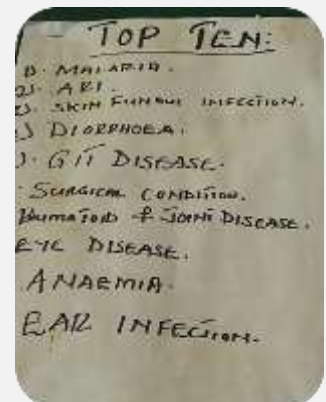


## コラム：村の疾患TOP10

村に一番近いディスペンサリーで掲載されていた、疾患ランキングです。1位は、やはりマラリア。日本では馴染みがありませんが、蚊に刺されることで感染する病気で、村人にとっては一番身近な病気です。

ディスペンサリーへの受診で最も多いのは5才以下の子供。ディスペンサリーでも簡易手術は行っており、交通事故など重症患者は総合病院に送るよう、病院間の役割が明確に決まっています。

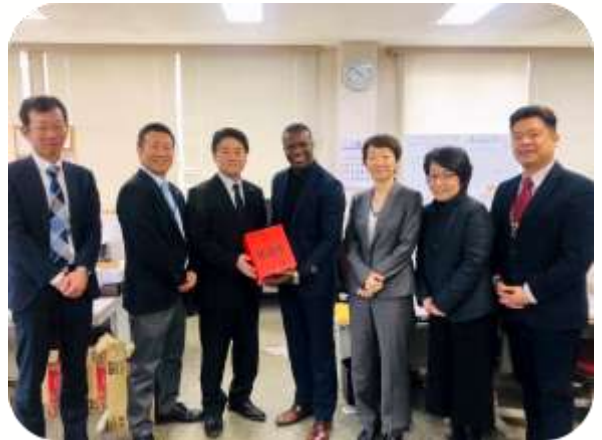
1. マラリア
2. 急性呼吸器感染症
3. 皮膚真菌感染
4. 下痢
5. 消化器疾患
6. 手術を要する状態
7. 関節リウマチ
8. 眼疾患
9. 貧血
10. 耳科感染



2018年12月にタンザニアのマネージャーGeofreyが初めて来日しました。Geofreyは AfriMedico 立ち上げ期からのパートナーです。

## ■富山訪問

日本全国で配置薬事業を行っている廣貴堂様の本社を訪問しました。日本の置き薬の現場に同行させていただき、お客様と会話しながら、置き薬の在庫チェック、薬剤補充、代金回収を流れるように行う営業担当者の方を拜見し、Geofreyも感心しきりでした。工場見学もさせていただき、日本のものづくりをしっかりと確認。また、廣貴堂の皆様と、タンザニアと日本のさらなる協力について対面で協議することができ、大変有意義な時間となりました。



## ■交流イベント開催

支援者のみなさまへ現地の様子を説明しました。また、現地のオペレーションについて、日本のスタッフと熱い議論を重ね、今後の戦略をまとめていきました。具体的な成果は2019年度に少しずつ出てきますので、ご期待ください！





## ■団体初の海外インターン

今年の4月に社会人となり、学生から一応は「プロボノ」になった「ふたえさく」です。昨年秋から冬にかけてタンザニアに3ヶ月滞在させていただきました。

主なミッションは村の置き薬オペレーションの改善。プロボノ団体が故に日本人を長期間現地に置くことができず現地メンバーに依存してしまっていた仕事を双方向のコミュニケーションで運用できる体制へとテコ入れしました。



## ■タンザニアでの一番の学び

タンザニアでの生活はとにかくたくさんの人に頼りました。知らない土地、知らない文化の中でそうせざるを得ませんでした。現地メンバーのGosbyは、本業の薬剤師としての激務の中でも常に気にかけてくれ、彼の尽力でこのインターンは成り立ちました。

そんな大恩人のGosbyとは、インターン中何度も衝突しました。僕は中学生以来、人と本気で衝突をすることをしていませんでした。無意識に人に合わせて、自分の意見を抑圧していたのだと思います。頼らざるを得ない環境で、接する機会が増え、心を開けたからこそその「衝突」でした。

現地タンザニアの仕事には今一切心配がありません。Gosbyへの全幅の「信頼」があるからです。「信頼の築き方」をこのインターンで学びました。



## ■ AI機能を活用した遠隔在庫管理に挑戦

当然ですが、アフリカは遠く時差もあります。現地で設置していただいている家庭が増えるにつれ、置き薬の日本での在庫把握が大きな課題となってきました。

そこで AfriMedico では、AMORE (AfriMedico's Okigusuri in Remote Environments) と名付けた独自のソフトウェア環境を構築し、より効率的なオペレーションに取り組んでいます。

### 第1フェーズ (2018年2月～)

タンザニアのメンバーが現地で薬剤の写真をスマートフォンで撮影し、ファイルの自動同期機能を利用して日本のメンバーと画像データを共有。現地で撮影した写真が日本で確認できるようになりました。

ところが新たな課題が・・・

- ✓ 薬が重なっていることも多く、識別が困難
- ✓ 目視で薬剤個数カウントをしているので手間がかかる

### 第2フェーズ (2018年9月～)

AI機能 (Einstein Vision by Salesforce.com) を利用して画像から薬剤の名称を自動的に認識し登録。撮影用の場所を書いた敷布を用意し、画像認識の精度を高めることに取り組んでいます。

将来は、現地の置き薬マネージャーがスマートフォンで各家庭の使用前・使用後の写真を撮影し、顧客情報と使用薬剤をデータベース化することにより在庫管理を自動化することを目指しています。まだまだ課題は山積していますが、引き続き AfriMedico ではICTを活用した置き薬事業のアップデートを進めていきます！



## ■ Salesforce World Tour Tokyo 2018

株式会社セールスフォース・ドットコムが主宰する同社最大のイベント Salesforce World Tour Tokyo 2018 でご紹介いただきました。当日は、パネル「置き薬が創るアフリカソーシャルイノベーション」への登壇（青木理事／山口理事）およびボランティアブース出展の2本立てです。多くの人に支えられた活動となりました。



## ■ 『NPO法人二枚目の名刺』コラボ「ファンをつくろう」プロジェクト

もっとAfriMedicoのことを知っていただき、より気軽にご支援いただくために、2018年9月末から約3か月の間、「AfriMedicoに興味はあるけどよく知らない」という二枚目の名刺メンバーと一緒に「ファンつく」プロジェクトを実施しました。わたしたちは外からどう見たのか？メンバーの一人が、その時の様子を描写してくれました。

### ◇最初の感想：洗練されているな～

AfriMedicoは、日本の置き薬を途上国（アフリカ）に展開することで、医療不足の解消を目指しています。ここから私が受けた第一印象は、非常に洗練されていて、ロジカルに仕組化されビジネスモデルができていて、でした。一定の収益化を念頭に置いたビジネスとして見ていました。

◇徐々に増えてきたギャップ：あれ、なんか違うかもでも、これをもっと細かく分解して調べていった結果、置き薬は先用後利（先に薬使って後でお金を払う）モデルなので、最初に薬を用意するのにお金がたくさん必要だし、アフリカでの固定的なオペレーションにかかるコスト（特に輸送にかかるコスト）が莫大に高い、といったことが分かってきました。

AfriMedicoは表面だけ見ると、スマートな湖上の白鳥のように見えていましたが、実は水面下ではそうとうバタバタ足を動かさないといけない状態でした。当然、活動を拡大し、アフリカの農村部に住む多くの人たちに医療を届けていくためには、まず寄付が必要でした。AfriMedicoの方たちもそんなことは百も承知でしたが、「寄付が必要なんです！助けてください！」という発信を積極的にはしていないように見えました。そして、その寄付がアフリカでどのように役立てられていて、現地の人たちがAfriMedicoの置き薬をどれだけ頼りにしているのか、も対外的には伝わっていないように見えました。

### ◇プロジェクトを終えて：残念ながら結果は出せず。

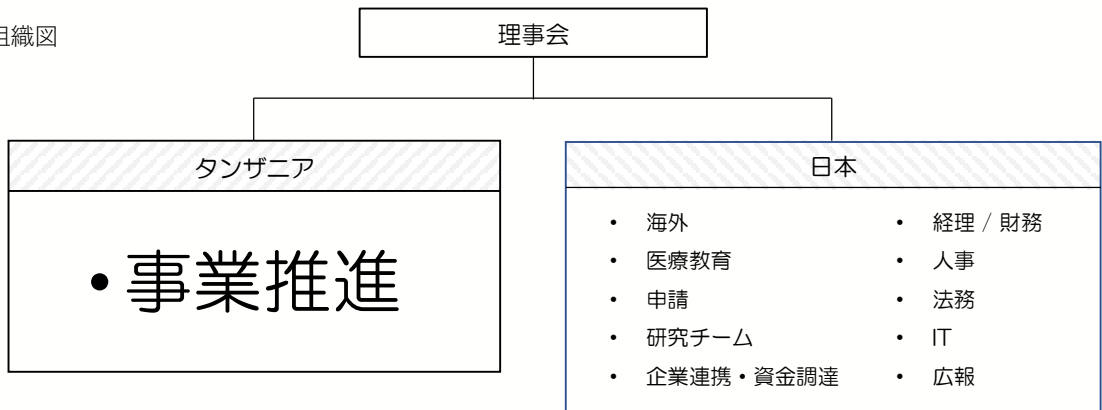
#### でも気づきはありました

目的は、「アフリカの全ての人々へ当たり前の医療を届ける」ことです。そのためには、置き薬がもっと必要で、そのためには寄付がもっと必要で、そのためにはAfriMedicoに興味を持ってくれる人がもっと必要です。残念ながら3か月のプロジェクト期間では、「こうすればファンが10,000人になるよね？」という答えは見い出せませんでした。今のAfriMedicoの状況や他のNPOの状況を踏まえ、「こうしてみたらどうだろう？」といういくつかの提案をすることはできました。

## ■団体概要

団体名	特定非営利活動法人AfriMedico
設立	2015年3月31日
代表理事	町井 恵理
理事	青木 基浩
理事	山口 牧子
理事	原 愛
監事	蒲池 正英

## ■組織図



### AfriMedicoの「働き方改革」

AfriMedicoでは、すべてのメンバーが本業を別に持ちながらプロボノとして活動をする「パラレルワーク」を実践しています。

日本側のスタッフは、2018年度に10名のメンバーが新たに加わり、全員で38名まで増加しました。

東京だけでなく大阪にもメンバーがおり、Skypeなどを活用しながらリモートでの活動も進めています。



現地の置き薬事業の支援、医療教育用資材の作成、広報活動、企業様との連携、薬剤の申請、研究、経理・財務、人事、ICT、法務とチームを10に再編成し、バックグラウンドも様々なメンバーが日々議論を交わしています。

アフリカや社会に貢献したい、というメンバー個々の想いを形にしていくことに加え、本業では出会うことはなかったであろう仲間たち、ここでしかできない経験など、たくさんの魅力がここにはあります。

メンバー同、さらにパワーアップし、より良い事業実現に向けて、邁進してまいります。

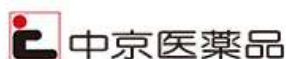
## 支えて下さった企業・団体の皆様

置き薬は先に医薬品を用意して家庭に置き、支払いは使った後になる仕組みであることから、現段階ではAfriMedicoの理念や取組みに賛同し応援いただける方々の力添えが活動の支えとなっています。

2018年度も多くのご支援をいただきました。その期待に応えられるよう、課題をひとつずつ克服しながら成果につなげていきます。改めまして皆様のご厚意に感謝申し上げます。

*Thank you*

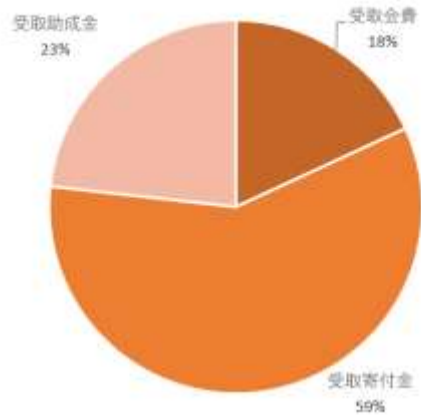
- |                  |                          |
|------------------|--------------------------|
| □ 花王ハートポケット倶楽部   | □ 花王株式会社                 |
| □ 関西・大阪21世紀協会    | □ 株式会社廣貴堂                |
| □ 国際協力NGOセンター    | □ 株式会社サンコミュニケーションズ       |
| □ Salesforce.org | □ 有限会社シンビ                |
| □ 大鵬薬品株式会社       | □ 株式会社中京医薬品              |
| □ 株式会社トップシーン     | □ 日本情報システムユーザー協会         |
| □ 日本マイクロソフト      | □ 株式会社フィールドワンプロモーション     |
| □ 株式会社富士通総研      | □ 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 |
| □ 株式会社メンタルポジション  |                          |
- (五十音順・敬称略)



(単位：円)

I 経常収益		
1. 受取会費		
賛助会員受取会費	545,000	
2. 受取寄付金		
受取寄付金	1,767,380	
受取助成金	700,000	
3. その他収益		
受取利息	25	
	経常収益計	3,012,405
II 経常費用		
1. 事業費		
(1) その他経費		
外注費	931,680	
旅費交通費	438,432	
海外出張費	706,404	
広告宣伝費	228,556	
支払手数料	93,893	
交際費	20,075	
会議費	127,849	
	事業費計	2,546,889
2. 管理費		
(1) その他経費		
地代家賃	64,800	
情報通信費	50,368	
消耗品費	129,588	
諸税印紙	5,858	
	管理費計	250,614
	経常費用計	2,797,503
III 経常外収益		
講演料	558,800	
雑収入	6,480	
	経常外収益計	565,280
	当期正味財産増減額	780,182
	前期繰越正味財産額	2,315,772
	次期繰越正味財産額	3,095,954

2018年度経常収益の内訳



AfriMedicoの活動を知って個人でご支援いただいた寄付者の方、企業様よりの寄付、助成金をいただき、経常収益としては、昨年度よりは減額したものの活動に必要な資金を得ることができました。

また、経常外収益として組織運営等の内の容講演による収入を得ております。

次年度も引き続き、より多くの方々に私たちの活動を伝えていきたいと思っております。



AfriMedicoは組織の理念に賛同し、活動に参加・支援して下さる方を随時募集しています。

## 参加の方法

### ①寄付をする

AfriMedicoは任意の額のご寄附を随時受け付けています。ご寄付は下記の口座にお振込みいただくか、下記URLよりクレジットカード決済がご利用いただけます。

URL : <http://afrimedico.org/donation/>

銀行名： 楽天銀行                      第一営業支店（251）  
口座番号： 7597662                  口座名： アフリメディコ



- マンスリーサポーター 月々500円～
- 今回だけの寄付 1,000円～

#### ■ モノで寄付をする“お宝エイド”：

書き損じはがきや、使わなくなった貴金属、書き損じはがきや切手などを送ることで寄付ができます。詳しくは下記URLを参照ください

<http://otakara-aids.com/program/afrimedico.html>

### ②会員になる

AfriMedicoは私たちの理念・活動内容にご賛同いただける個人・企業の方を広く募集しています。定期的な活動状況の報告、シンポジウム・講演会・イベントなどの優待など会員特典が多数あります。

- 正会員（個人） 入会金5千円 年会費1万円
- 正会員（団体） 入会金1万円 年会費10万円

### ③プロボノ・ボランティアとして活動する

AfriMedicoの理念に賛同し、ともに活動してくれる方を募集しています。私たちはメンバー全員がパラレルワークとして本業をほかに持ちつつ“働きながら社会を変える”という志で活動しています。活動に興味のある方は[afrimedico@afrimedico.org](mailto:afrimedico@afrimedico.org) までご連絡いただくか、入会説明会にご参加ください。

#### 寄付の手段が増えました：「つながる募金」のご案内

ソフトバンクユーザーの方には、これまでより簡単にAfriMedicoへ寄付いただけます。ぜひご利用ください。

<http://ent.mb.softbank.jp/apl/charity/sp/select.jsp?corp=473>

- URLやQRコードからシンプルな操作で寄付できます。
- 携帯電話利用料と一緒に支払いただけます。
- クレジットカード番号等の入力が必要ありません。



E-mail : [afrimedico@arimedico.org](mailto:afrimedico@arimedico.org)

Web site : <http://afrimedico.org>

Facebook:[www.facebook.com/afrimedico](http://www.facebook.com/afrimedico)

発行：2019年6月

**NPO法人 Afrimedico**